

上久世藏王堂は医王山光福寺と号し、宗旨は四宗兼学にして、本尊は藏王権現〔役行者の作。又二王門の金剛力士は聖徳太子の作なり〕此寺の初は村上帝の御宇天曆年中にして、浄藏貴所〔当寺の開基なり〕吉野の奥金御嶽の嶮に籠りて、一心に密法を行ひ、夫より洛に趣んとし給ふ。夜夢ともなく現にもあらで、藏王権現忽然としてあらはれ給ひ、宣ふやうは、汝常に法施怠らずして神妙の至なり、今都に帰らば我をも供すべし、永く有縁の衆生を守んとぞ。貴所奇異の思ひをなし、告に随ひ袈裟を解て肩に結び、脊に則負奉り、路を急ぎしに忽化して木像となりたまふ。桂川の西のほとりを上りしに、持し給へる鉢自ら河水に落ちて、水さかのぼりて北のかたに至る、又一つの森のうへに光明あり、行てみれば辨財天の靈場なり。こゝに於て藏王の神像大石の如くにして動かず、是ぞ有縁の地と悟り、則草座にすゑ奉り持念す。同じき夜西のかたに大きな椰生ず。又明天老翁あらはれ、椰に向ひて辨財天医王善逝と唱へて拜す。貴所これを問ば、翁答て、辨財天降臨の地なり、今時なる哉藏王権現此地に來り給ふ、早く仏閣を建て安住せば利益広大ならんと、云終て失ぬ。貴所様々の靈告を蒙りしより、一堂を營尊像を安置す。〔当寺伝記の意をとる〕